

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西区
学 校 名	堀江小学校
学校長名	山口 裕二

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・堀江小学校では、第6学年 219名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科に関する調査では、令和7年度の平均正答率は、3教科とも大阪市平均を上回っており、全国平均と比較しても、国語科は3.2ポイント、算数科は6ポイント、理科は4.9ポイント高かった。平均無回答率は、3教科とも全国平均、大阪市平均より低く、問題に対して粘り強く取り組む姿勢がみられる。

児童質問においては、自尊感情に関する質問や「いじめは許されない」という質問に対して、最も肯定的な回答が全国平均と比較して高かった。学習面に関する質問についても、課題解決についての質問や話し合い活動の質問についても、全国平均と比べて総じて高かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全国平均と比較して、学習指導要領のすべての内容について、全国平均を上回っており、国語科の学習がおおむね習得できている。しかし、「書くこと」においては、他の項目に比べて低くなっており、課題がみられる。朝学習の時間を利用して基礎基本の学習の確実な定着を図ったり、授業において、書く活動を重点的に取り入れたりし、課題解決に向けて取り組んでいる。

〔算数〕

全国平均と比較して、学習指導要領のすべての領域において、全国平均を上回っており、算数科の学習がおおむね習得できている。今後も基礎基本を重視していくとともに、児童の意欲向上を図る授業づくりや学習活動に取り組んでいけるようにする。

〔理科〕

全国平均と比較して、学習指導要領のすべての領域において、全国平均を上回っており、理科の学習がおおむね習得できている。今後も自ら課題を見つけ、問題解決を重要視した授業づくりや学習活動に取り組んでいけるようにする。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の最も肯定的な回答が全国平均と比較して15.9ポイント高く、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」について肯定的な回答が96.7ポイントであった。自分や他者を大切にしている児童の様子がうかがえるが、いじめが許されないの最も肯定的な回答が84.0ポイントであったので、ここでのポイントを高められるように日々の学校生活や学習活動の中で高めていけるようにしたい。

学習活動において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」についての肯定的回答が、全国平均と比較して8.0ポイント高く、主体的な学びの実現について成果がみられる。また、「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか」について肯定的回答は7.6ポイント上回っており、協働的な学びの推進が見られる。

今後の取組(アクションプラン)

国語科では、説明的な文章の読み取り学習を中心とした学習を丁寧に取り組み、資料をもとに自らの考えを表現する場面を多く設定することで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。校内研究では、国語科の研究に取り組み、学力向上支援チームのアドバイザーの先生の意見を参考にし、よりよい授業づくりの研鑽に励む。

算数科では、基礎的な知識の習得をベースにしつつ、データの活用を中心とした問題に、目的意識をもって主体的に学習を進める中で、自分の考えを様々な形で表現する場面を意識的に設定し、論理的に思考する力の育成をめざす。

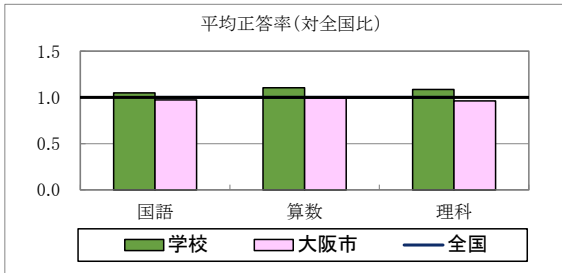
理科では、基礎的な知識の定着を図るとともに、自ら問題を解決していくための手段や方法を考えさせ、実感を持った理解を得られるように授業づくりの研鑽に励む。

学校生活においては、自分や他者を大切にできるよさをこれからも維持しつつ、学習活動の場においては、粘り強く学習に取り組む姿勢を醸成できるようにする。

【 全体の概要 】

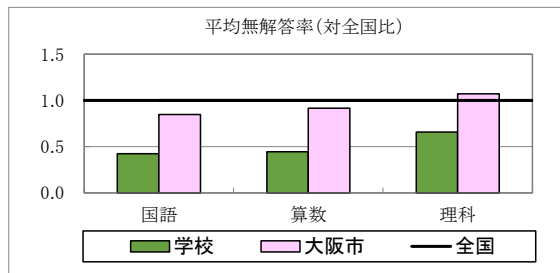
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	70	64	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.4	1.6	1.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



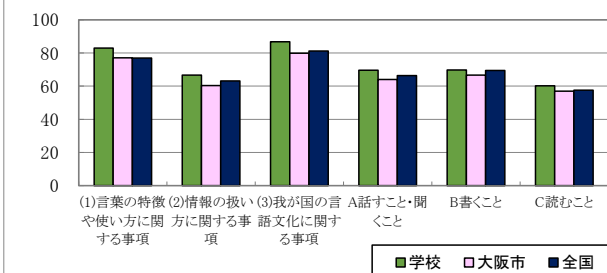
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	82.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	66.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	86.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	69.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	69.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	60.2	56.9	57.5

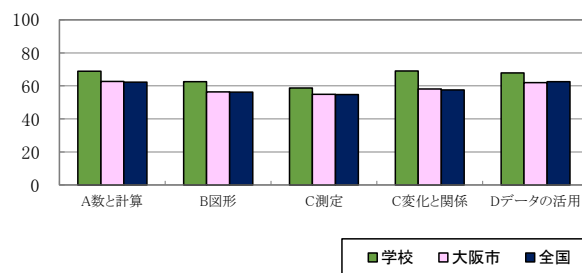
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	68.9	62.7	62.3
B 図形	4	62.6	56.4	56.2
C 測定	2	58.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	69.1	58.2	57.5
D データの活用	5	67.9	61.9	62.6

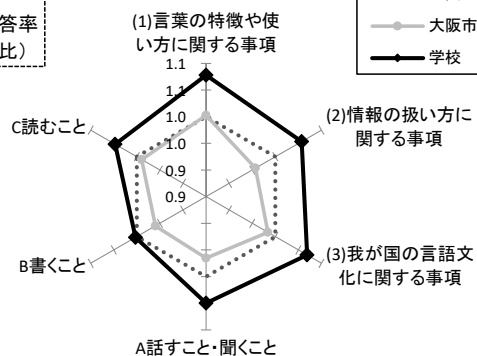
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



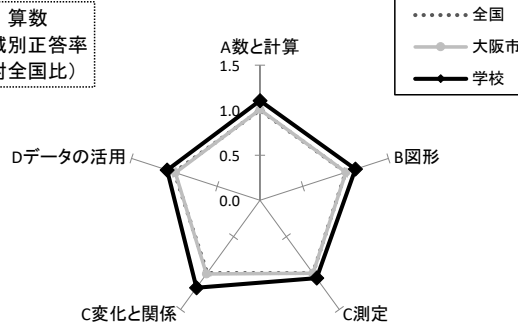
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

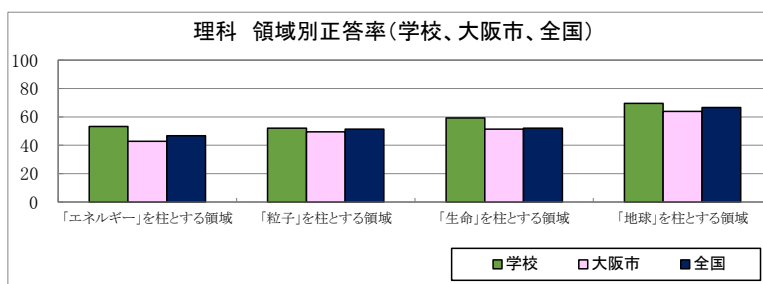


算数 領域別正答率 (対全国比)

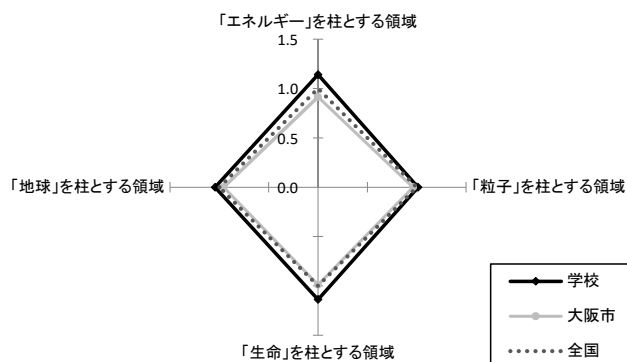


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	53.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	52.1	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	59.2	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	69.6	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

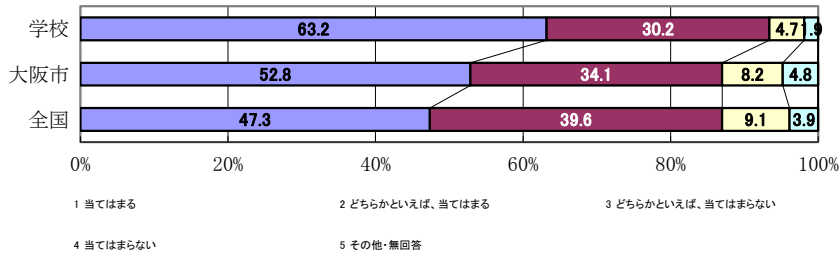
質問番号

質問事項

5

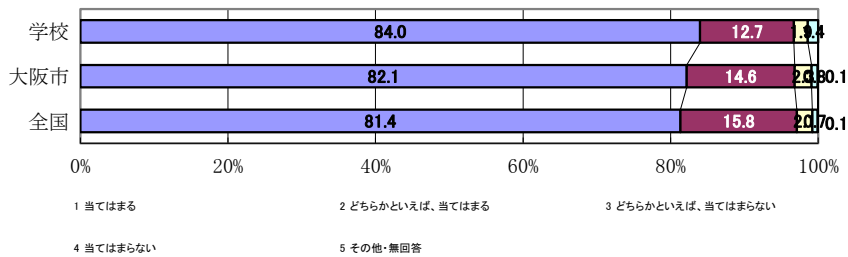
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



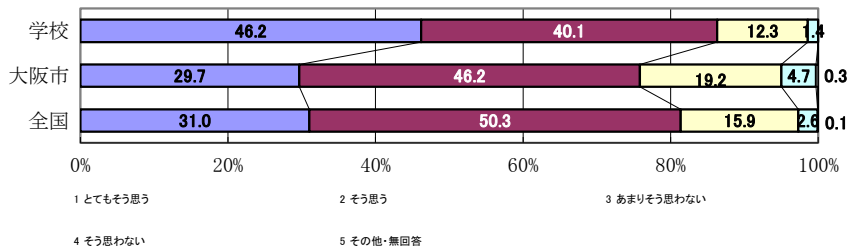
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



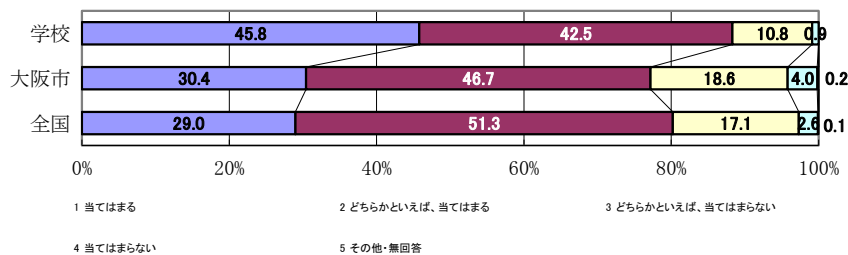
76

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



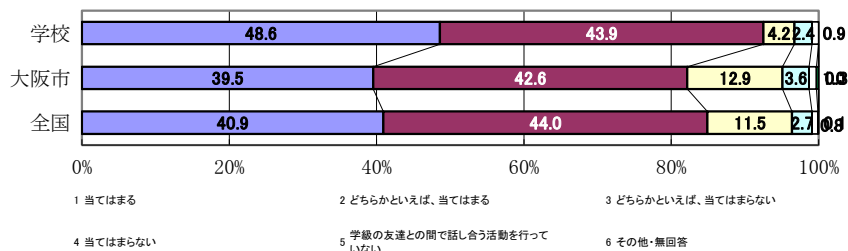
32

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

質問番号

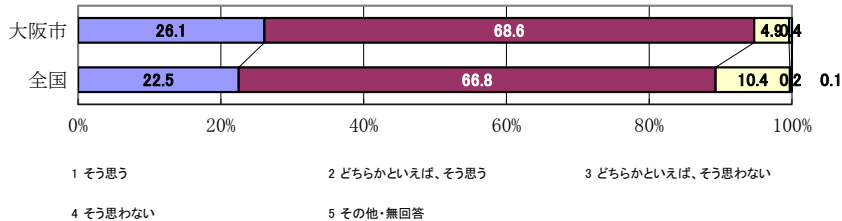
質問事項

25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

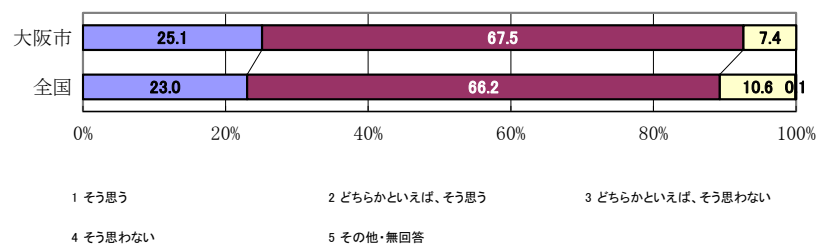
学校 「そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

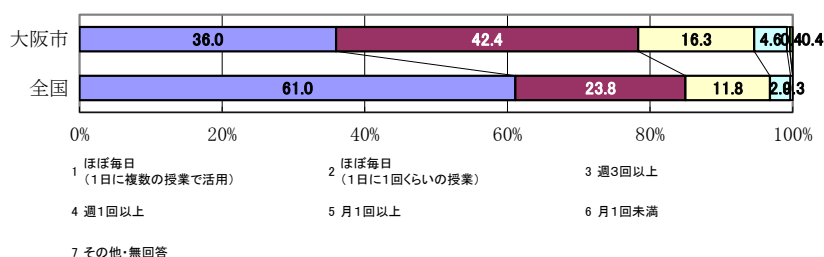
学校 「そう思う」を選択



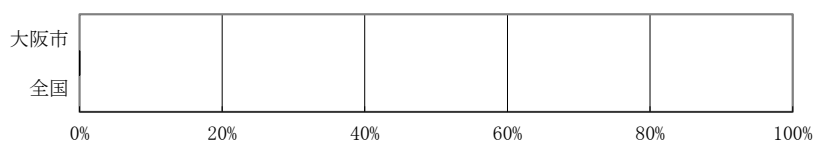
58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

